

# とやま市公民館だより

富山市教育委員会 富山市公民館連絡協議会 令和6年12月20日発行

## 富山市公民館研修会(前期)

令和6年7月26日(金) 大久保ふれあいセンター

### 《特別講演》



### 《事例発表》



安野屋町公民館



秋吉公民館



## 受彰おめでとうございます

### 全国公民館連合会表彰

永年勤続職員表彰 森 川 美 子(富山市立広田公民館)  
竹 橋 紀 子(富山市立針原公民館)

三 浦 みゆき(富山市立西田地方公民館)

全国公民館研究集会・東海北陸公民館大会金沢大会中止のため、富山県公民館大会(9月12日)において受彰

### 富山県公民館連合会表彰

優良公民館表彰 堀川本郷公民館

永年勤続職員表彰 (20年以上) 林 真由美(富山市立婦中熊野公民館)

(10年以上) 奥 野 薫(富山市立速星公民館)  
山 口 明 子(富山市立倉垣公民館)

谷 井 沙緒里(富山市立下夕北部公民館)

富山県公民館大会(9月12日)において受彰

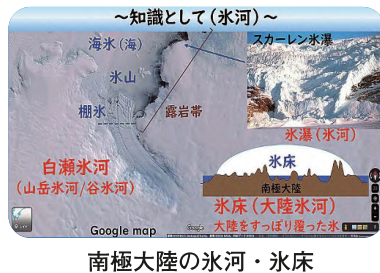
# 〈特別講演〉「南極観測の必要性和観測隊員の暮らし」

富山地方気象台 リスクコミュニケーション推進官 木津 暢彦 氏  
(第59次南極地域観測隊越冬隊長)

猛暑が続いていますが、今日はこの暑さとは正反対の、南極の寒さに関するお話をお届けします。南極は0度以下が当たり前の世界であり、私たちの生活や仕事とは全く異なる環境が広がっています。本日は、南極での経験をいくつかのテーマに分けてお話しします。

## 《南極の氷河と地理》

南極大陸は広大な「氷床」で覆われています。氷床は、南極大陸全体に積もった雪（ダイヤモンドダスト）が長い年月をかけ圧縮されて形成されたものです。「氷河」は南極の特徴的な地形で、南極には「白瀬氷河」という世界でも速く流れる氷河が存在します。さらに、「棚氷」（氷床が海に突き出して割れずに海に浮かぶもの）や、それが割れて海に浮かんで漂う「冰山」など、様々な氷の形態が存在します。



## 《昭和基地の設立と歴史》

日本の昭和基地は、1957年に建設されました。これは国際地球観測年に合わせて南極での観測を開始したことがきっかけです。当初、日本が南極観測に参加することに反対意見もありましたが、日本の探検家・白瀬矗（のぶ）がアムンセンやスコットと同じ時期に南極で測量していたことも評価され、観測が認められました。

昭和基地は、南極大陸から少し離れたオングル島に位置し、周囲1000キロメートルに他の越冬基地がない孤立した場所にあります。現在でも接岸が難しく、最初の観測隊では氷に閉じ込められ、ソビエトの助けを借りて脱出したという苦しい歴史もあります。このエピソードも含めて、昭和基地は、日本が南極での観測を続ける基盤となったのです。

## 《昭和基地での生活》

昭和基地での生活は厳しく、特に越冬隊の任務は大変です。気温がマイナス40度近くに下がることもあり、ブリザード（猛吹雪）が頻繁に発生します。

隊員たちはその中で生活し、観測や基地の維持作業を行います。

極地では一日中太陽が昇らない時期（極夜）や一日中太陽が昇っている時期（白夜）があります。特に真っ暗な冬至（6/21頃）の頃はイベントの一コマ



にはメンタルケアも大変重要となるので、昭和基地では定期的にパーティーを行うほか、冬至には南極にある各国の基地間で「ミッドウインター祭」のお祝い交流をするなど、世界中の基地で協力して越冬を乗りきります。

## 《科学的成果と発見》

南極での観測は、多くの科学的成果を生み出しています。特に隕石の発見やオゾンホール発見などは、日本が世界に先駆けて行った重要な業績です。氷床コア（氷のサンプル）を採取して、数十万年にわたる気候の変動を解析する研究も行われています。現在、日本は世界トップクラスの技術を持ち、過去100万年分のデータを解明することを目指しています。

## 《地球温暖化とその影響》

今、富山もそうですが、世界では気温が急激に上昇しており、温暖化の影響が顕著です。南極で得られたデータもこれまでの気候変動の証拠や温暖化の将来予測などに利用されます。温暖化の影響に対処するため、気象庁では防災予防や気象



接岸中の「しらせ」を見に来た  
アデリーペンギン一行

の普及啓発活動を行っています。

## 《おわりに》

今日は、南極の厳しい環境とそこで行われている活動について紹介しました。

南極での生活や観測を支えるため、日本が誇る様々な技術や手法、科学が駆使されており、得られた知見は日本や世界に還元されます。今後その重要性は増していくでしょう。



昭和基地

富山地方  
気象台



南極地域  
観測隊



安野屋町公民館 館長 鈴木 友喜

《地区の概要》

安野屋地区は、中心市街地の西に位置し、県道44号富山高岡線（旧国道8号）と富山地铁の軌道線（富山大学前行）が通り、北側には高志の国文学館、芝園小・中学校、富山中部高校がある学園地区です。高齢者が通院しやすい市立富山まちなか病院もあります。地域の景観としては、富山大橋の五福方面から観る晴れた日の立山連峰、春の松川の桜並木に花が咲き乱れる様子は名景観です。

《公民館の概要》

昭和40年4月1日に、安野屋町が区画整理で1～3丁目に分割されましたが、公民館は共有で使用しています。

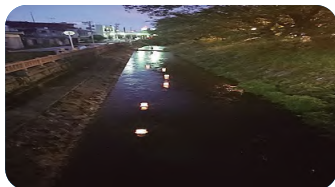


安野屋町公民館前景

当公民館は地铁軌道線（富山大学前行）安野屋駅電停から徒歩1分のところにあり、築59年の木造瓦葺平屋ですが能登半島地震による被害は漆喰壁の軽いヒビ割れのみでした。

《公民館活動》

年間行事として、総会とそれに伴う事務、年末夜警、冬期間の通学路の除雪や、大正時代に神通



石仏の祭りの灯籠流し（松川）

川堤防改修時に川から引上げられた石仏（観音様）の年に一度のお祭りがあり、終了時に灯籠流しを行っています。

その他にも、川をきれいにする運動、高齢者と幼稚園児の集い、お花見会、お月見会や流しそうめん、BBQ大会のほか、文化祭（健康展など）、ウイークエンドコンサートなどの文化行事も数多く行っています。各種団体との共同行事は、主に長寿会連合会が主体となって活動しています。



高齢者と園児の集い

《おわりに》

安野屋町1～3丁目の人口は595人、世帯数341世帯で、65歳以上が194人と市の多くの地区と同じで高齢化が進んでいますが、今後も公民館、ふるさとづくり協議会、長寿会連合会、自治振興会などと相互に協力し、地域住民への活動を継続し、気軽に集えるような、人、町づくりに努めていきます。

秋吉町内会 副会長 安田 隆

《地区の概要》

秋吉地区は、常願寺川の扇状地で、南から北西に向かって緩やかな下り坂となっています。周辺には山もありませんので、防災に対してほとんど意識がない町内です。今年の3月現在の世帯数が817戸、人口1,887人、後期高齢者数232人、避難行動要支援者は35人です。

《防災隊設立の経緯》

令和4年8月、富山市で大雨洪水警報が発令され、町内の用水の縁すれすれまで水が流れていました。このとき数人の方から「おらどこに避難すりゃいいんだ」という問い合わせがありました。



民家近くの用水が溢れる

そこで、町内会の本部役員で話し合い、避難行動要支援者を積極的に救助するための自主防災組織づくりが必要ということで準備を始めました。以上が秋吉防災隊の設立経緯です。11月と12月に説明会を開催し、翌年3月に富山市に防災組織の届けをしました。

《防災隊の組織・活動》

当時の役員構成は本部役員、行動班、情報班、給食・給水班、民生委員の約30名です。まずは、富山市や町内会からの助成金でリヤカーやヘルメットなど資機材を購入し、公民館に置きました。

次に避難行動要支援者のための支援マニュアルを作成しました。洪水編では水平避難より垂直避難を推奨することを決めました。警戒レベル3（高齢者等避難）以上が山室校下に発令されたとき、隊長等から民生委員に連絡し、要支援者に所定の場所に避難するように指示をしてもらうことにし、電話連絡できない場合は、防災隊員が個別訪問し、直接説明して避難してもらうことになりました。



防災訓練の様子

地震編では震度5以上の地震が発生した時、隊長等から民生委員に連絡し、要支援者の安否を電話で確認、または、ご自宅に行ってお安否を確認していくことに決めました。

《おわりに》

このような取り組みにより、住民からは「防災隊ができてとても心強い」「できることから協力したい」という声が届けられています。

ただ、隊員に若い人が少なく、これから、『町民の、町民による、町民のための秋吉防災隊』をどう広げていくのかが一番の課題だと思っています。

## わが町新築公民館紹介

岩瀬地区

### 諏訪町公民館

館長 小川 伸一

町内会の旧公民館は、築後58年経過し、老朽化も進んでいます。数年前から全面改築を計画していましたが、今年度、町内会の承認を得て、富山市の建設補助金及び整備資金貸付制度を活用して建設する事になりました。補助金の交付、整備資金貸付の決定の後、9月上旬に上棟しました。旧公民館建設当時とは世帯数も半減している事もあり、床面積も22㎡余り小さくなりましたが、完成後は町内会や公民館活動の拠点として、各種会合をはじめ町民の交流、親睦の場として今迄以上に活用していきたいと思っています。  
(延床面積85.29㎡)



### 公民館活動をご覧いただけます

富山県内の公民館で行われる講座やイベントなどの情報は「とやま公民館学遊ネット」のホームページで各公民館から発信されています。

富山市公民館連絡協議会のコーナーでは、最近の研修会の資料や、特別講演・事例発表(動画)なども閲覧できます。

とやま公民館学遊ネット  
トップページ



富山市公民館連絡協議会



## 富山市教育委員会へ要望書提出

8月23日、市公連から会長はじめ副会長、常任理事等8名で、市教育委員会へ要望書を提出しました。市側からは、教育委員会関谷事務局長はじめ幹部の皆さん4名が出席されました。

### 要 望 事 項

- 1 市立公民館職員の研修機会拡充
- 2 公民館の施設整備への支援
- 3 社会教育主事の配置及び社会教育士制度の活用促進
- 4 市公連への加入促進
- 5 自治公民館建設補助金の活用
- 6 自治公民館建設補助金(修繕)の補助対象経費の引き下げ及び経過期間(5年)の短縮
- 7 熱中症対策のためのエアコン設置(新設、更新)への支援

要望への回答につきましては、3月理事会で報告する予定にしています。



## 第55回東海北陸社会教育研究大会富山大会 第52回富山県社会教育大会に参加して



富山市教育委員会  
生涯学習課生涯学習係長  
本多 由香利

富山市では82か所の市立公民館を拠点に、各地区に「ふるさとづくり推進協議会」を立ち上げ、地域特性を生かした事業を展開しています。

分科会では、地域住民の連帯感を深め、学びと参加で豊かなふるさとづくりの実現を図ることを目的としている「地域づくりふれあい総合事業」について発表しました。

「SDGsに関する取組」では、様々な団体と協力し、講演会やフードドライブ等を実施している速星地区、ペットボトルの蓋から作られたフラワーポットで花の寄せ植えを作った萩浦地区を、「幅広い層の利用者を増やす取組」では小学校体育施設の利用団体の協力で、年齢性別を問わず楽しめる屋内イベントを実施した上滝地区、幅広い世代の参加を意識し、校区の体育協会の協力でスポーツフェスを実施した新保地区を紹介しました。

各地区にある技能やノウハウを持つ地域の各種団体や民間企業等は資産です。また、うまく地域の団体と協働し、知恵を絞りながら行事を開催している地区は、ノウハウを披露することで、他地区の行事の企画力、運営力の向上にも寄与しています。

これからも、ふるさとづくり推進事業の実施が、各地区の各種団体や住民とのつながりの深化の役割を果たし、地域の活性化に貢献できればと考えています。



分科会の様子



熱心に質疑が行われた



編集委員

清水 孝夫(市公連推薦)  
森川 美子(市立広田公民館)  
上村 弘樹(市立小見公民館)

山本 桂三(市公連推薦)  
見高 知子(市立新保公民館)  
八朝 淳子(市立室牧公民館)

藤田 和則(市立八人町公民館)  
若林 祐子(市立上条公民館)

◇…発行者

富山市教育委員会  
富山市公民館連絡協議会

所在地

富山市新富町一丁目2番3号  
C i Cビル3階 市民交流館内

TEL 076-431-4569…◇